

がん化学療法の充実に向けて

抗がん剤治療(化学療法)は以前は入院して行うことが一般的でしたが、新しい治療薬の開発や副作用を軽減するための薬剤の改良などにより近年では外来でも安全に実施できるようになりました。最近の化学療法の進歩は目覚ましく、新薬による治療成績の向上、特に生存期間の延長などといった点で注目がされること多いのですが、その一方でそうした単なる生存期間の延長といった側面からだけでなく、生活の質を落とさずに治療継続できるかどうかが大変重要なテーマとなっています。この外来化学療法のシステムを整備することにより、患者さんが自宅で普通の生活を送りながら最新の治療を受けることができる環境を提供できるようになりました。

当院の外来化学療法室は平成16年度から稼働開始となりましたが、開設当初よりわずか7床という限られたベッド数でスタートし、スタッフ数も看護師2名、非常勤看護師1名、がん化学療法看護認定看護師1名という状況でハード面およびソフト面ともに限られたなかでの運営を行ってまいりました。しかしながら、近年の外来化学療法実施件数の増加は顕著で平成17年度の年間実施件数は1149例であったのに対しH21年度以降は年2400件を超える実施件数となり(図1)、より安全で最良のがん治療を外来通院の形で受けたいという患者さんのニーズにお応えするためにもこの外来化学療法室の拡充が急務となりました。そこで、平成22年より外来化学療法室拡充に向けた検討が始まり、現在当院2階にある化学療法室(7床)はそのままの形で残し、新たに3階フロアにミキシングルームを併設した8床の化学療法室を新設することが決定しました。

施設改修工事は平成24年6月よりスタートし、平成24年11月より本稼働できる運びとなりました。開設当初は7床で行っていた外来化学療法は拡充後には全15床となり名称は「外来化学療法センター」と変更し、スタッフ数もわずかながら増やすこともできました(図2)。治療中の患者さんが落ち着いた雰囲気の中で治療できるよう、壁や床はフローリング調とし従来のベッドやテレビのほかプライバシーにも配慮した作りとなっております。安全で最良の治療を行うためには正確な抗がん剤の調剤も不可欠ですが新設した外来化学療法センター内にはミキシングルームを併設し薬剤師を常駐させ、高い技術と最新の知識を持って正確な調剤を行っております。



外来化学療法を行う際にはまず医師が患者さんを診察し全身状態を確認した後、外来化学療法センター担当看護師へ抗がん剤開始の許可を出すとそれを受けてミキシングルーム内で薬剤師による調剤が始まります。ミキシングルームでは安全キャビネットを用いて薬剤師による無菌的で正確な調剤が行われ、調剤後すぐに患者様の元へ薬が届けられます。ミキシングルームは外来化学療法センター内にあるので調剤後速やかに患者さんの元へ正しい薬が正確に投与されることになります。

外来化学療法においては安全管理も大変重要なテーマです。緊急時においては院内から主治医が駆けつけるだけではなくそのバックアップメンバーも配置しております。また救命処置が必要な場合においても当院の誇る救命救急センタースタッフが駆けつけるコードブルーシステムを整備しております。通常診療においても治療後の副作用の発現症状、治療スケジュールや治療内容の妥当性などについては定期的にスタッフミーティングを行い、次回以降にさらにより良い医療を提供できるように話し合いを行っております。特に看護スタッフはがん治療を続けている患者さんの精神的な支えにもなれるよう、きめ細やかな対応を心がけています。

図1 外来化学療法 予約・実施件数

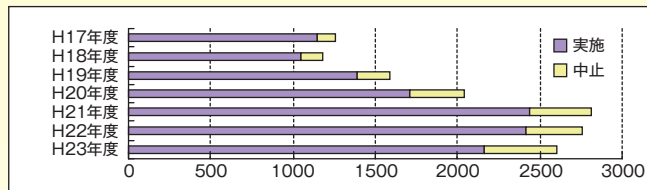


図2 外来化学療法拡充後の体制(青字が変更部分)

	外来化学療法センター2F	外来化学療法センター3F
ベッド数	7ベッド	8ベッド
他の設備		診察室1 ミキシングルーム 受付カウンター
看護師人員	看護師5名 非常勤看護師1名	がん化学療法看護認定看護師1名
受付クラス		8:45~15:00 1名
使用診療科	消化器内科 呼吸器内科 血液内科 外科 形成外科 放射線治療科 (新規)泌尿器科 婦人科 (皮膚科)他	
対象治療薬	生物製剤 ホルモン剤	抗がん剤
医師の体制	担当医師	
薬剤のミキシング	薬剤部	
レジメン申請	診療科医師	

併設された
ミキシングルーム



当院の外来化学療法センターが大きく新しく生まれ変わり、スタッフもやる気満々です。より良い医療を提供すべく頑張りますので是非応援よろしくお願いいたします。